

# 高温・少雨に対する果樹の技術対策

平成27年8月12日

果樹試験場

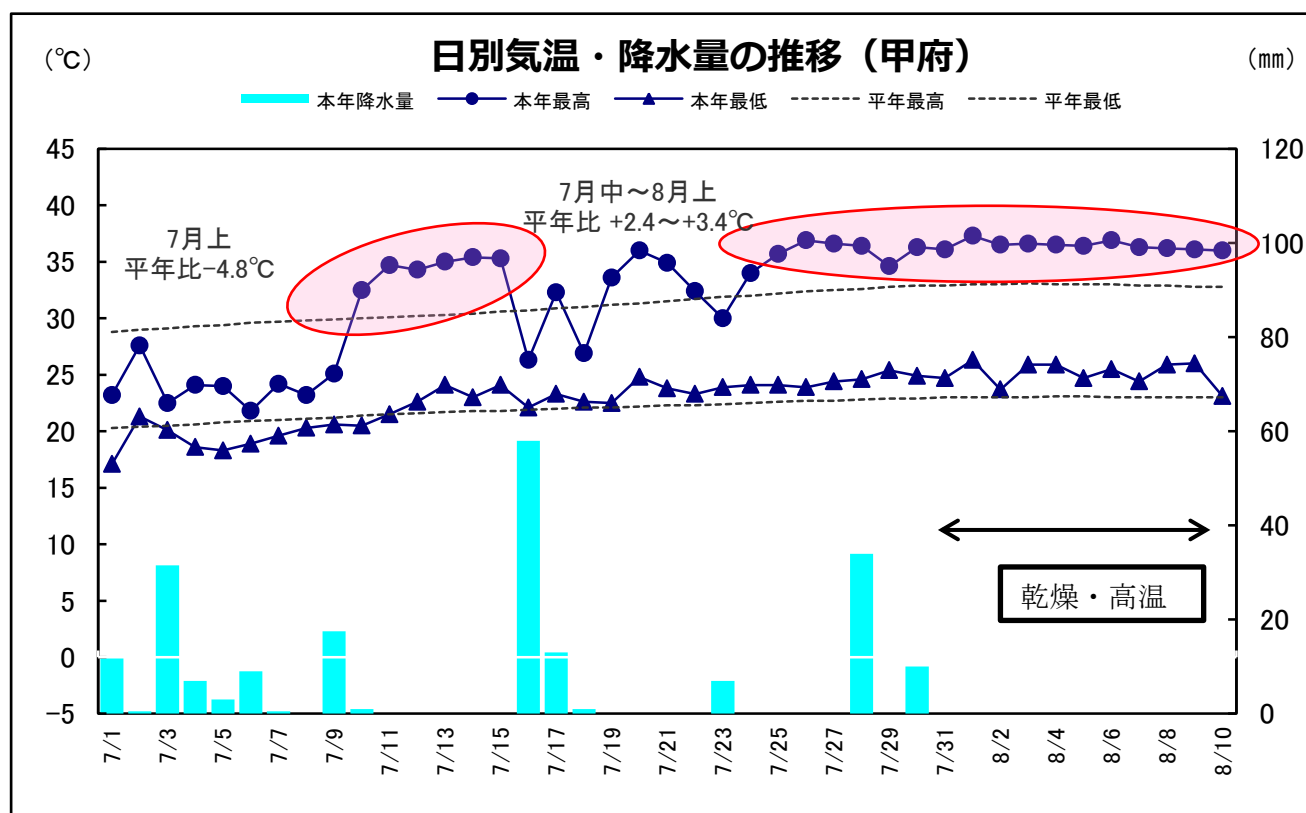
果樹技術普及部

7月下旬以降、最高気温が35℃前後で経過し、7月末からは降雨がほとんどない状態で経過しています。甲府地方気象台発表の8月12～18日までの週間天気予報では一部降雨の予報となっていますが、引き続き、34℃前後の高温が予想されています。

果樹の生育は、ブドウで巨峰やピオーネ等が出荷盛期、モモでは川中島白桃が収穫終期で極晩生種の収穫始めとなっています。

高温乾燥の影響からか、巨峰系品種の着色遅延、収穫期や収穫に近い品種の一部で果梗部の褐変、果粒の軟化など品質低下への影響が懸念されます。

今後の天候に応じて適切な技術対策を実施してください。



## ○ブドウ

- ・夜温低下による着色向上を図るため、夕方のほ場散水（5mm程度）を行う。
- ・乾燥条件からの極端な多量の降雨等により裂果が心配されるため、よりこまめなかん水（少量・多回数）により土壌水分を保つ。
- ・収穫が遅れると果粒軟化の助長が配されるため、出荷基準に従い、適期の収穫を行う。

## ○もも

- ・果実硬度2～2.5kgを目安に適期収穫に努める。なお、最高気温が35度前後になると成熟や着色が遅延する傾向にあるため、熟度に注意し収穫を行う。
- ・日焼け果の発生を抑制するため、着色が進んだら早めに反射マルチを除去する。

## ○その他

- ・その他の果樹、農作物については、7月28日付け「高温・少雨に対する農作物の技術対策」を参照してください。